



剣志

KEN SHI

2022年89号(令和4年10月)

発行者 九州地区クラブ

会長 加野 資典

幹事長 山田 雅士

ホームページアドレス <http://www.npo-igkc.or.jp> eメール

鶏頭の 十四五本も ありぬべし

正岡 子規

鶏頭が天を目指して咲いている風景は、生の躍動感を際立たせ、子規の「今を生きている」様を映しているようです。



10月15日、コロナ感染が収まる傾向をみせる中、感染症対策を行い、久留米ランテック道場において2022年10月例会が開催されました。井上誠一先生の指導による相互稽古、八段と八段一次合格者の先生による指導稽古は、充実した稽古会でした。稽古会には37名の会員が集まりました。指導稽古は約1時間行い、気迫ある、充実した稽古会が実施されました。

【稽古会】

日時:令和4年10月15日(土)午後3時00分~4時30分

場所:(株)ランテック剣道場

久留米市宮ノ陣町若松1-3 Tel:0942-36-4125

【出席者:37名】(順不同、敬称略)

尾方正照先生、野口慎一郎先生、小島良守先生、池田純洋先生、井上誠一先生、山田雅士先生
(当地区八段の先生6名)

秋山勝年、池永祐一郎、宇佐輝彦、打越亨、大隈光夫、大塚勝也、小川金吾、加野資典、佐藤博喜、澤木孝明、澤木直子、下林千代鬼、末安真知夫、瀬戸靖博、平嘉和、武田耕次、田中義勝、豊田末雄、中道政生、永岡義規、橋本正照、掃本 博、日高久光、溝口勝正、森 雅敏、森迫多美子、大和竹史、若松清孝、若本晃一、渡辺勝彦、渡邊寛二、

【加野会長挨拶】

本日は、たくさんの会員の皆さんが集まっていたいただきありがとうございます。先月は台風接近の状況でしたが、今回は秋晴れの良い天気の中、多数の会員のおかげで充実した稽古が出来ると感謝申し上げます。参加者の顔ぶれを拝見しますと実力者が多数おられます。また、八段の指導陣も多数参加されていますので、しっかり鍛えていただきたいと思います。次は東京で八段審査があります。是非、頑張ってください、当会から一人でも多くの合格者を誕生させたいと思います。よろしくお願ひします。

【相互稽古】

講師:井上誠一先生

内容:基本技(メン打ち、切り返し、小手面連続技)、相互稽古

(指導事項)触刃の間合いから気合を入れる。交刃の間合いでは中心を取る。そこから面打ち、切り返し。同様にして小手面打ちの連続技、打突後は、止まるのではなく、打ちぬけを速くする。

立ち合いの稽古:2分間×3回

【指導稽古】

相互稽古終了後、水分補給を行い、約1時間の指導稽古。

元立ちの先生は、八段6名および下林先生、森先生、平先生、池永先生の10名から指導をいただきました。

【講話】尾方正照先生

「審査での立ち合いについて」

相手との立ち合いで一番大事なことは、「無駄打ちをしないこと」が大事です。2~3本打突後、もし当たらないなら、どうしてかと反省が必要です。何が不足していたのか立ち合いの中で考え、判断することです。間合いを取り、触刃の間合いから声を出し、呼吸を止め、我慢する、溜を作る。呼吸法に意識を高め、剣先に気持が乗り移ることにより、相手に圧力をかけていきます。気は早く、気合を充実させ、心を落ち着かせ、相手を物見から見る。相手より先に先を取る。だから、相手に圧力がかかる。相手は圧力を感じて動くはず。強く反発するか、弱く反発するか、そして、相手が引いたらチャンス、相手を動かす。もし相手が出てきたらパッと打つ。技は激しく打突するが、当たらなくても腰が入り、機会を捉えていれば、審査員はよくぞ打ったと感じてくれる。相手に剣先の攻防でじわじわ入り、圧力をかけて、相手を動かして、気剣体一致の技を出す。相手との間合いの攻防は探り合いです。竹刀を上から押さえたり、裏から捲いたり、叩いたり、相手を動かして、相手の足が出るところを見極める。そこまでやって、理にかなった気剣体一致の技を出すと審査員は○をします。

「私の座右の銘」

私の座右の銘を紹介します。「八風吹不動」です。われわれは、他人から「利(り)・称(しょう)・楽(らく)・誉(よ)・衰(すい)・毀(き)・譏(き)・苦(く)」の言葉によって心はいつも揺さぶられてしまう性分をそなえています。しかし、その八つの言葉(風)に動じない不動心を持つと言うことです。われわれは不動の心で無心でと、己に言い聞かせても心が揺れ、心乱れるのが常です。そこで、揺

れた心を、すぐにもとの気持（構え）、心の中心点（攻めの姿勢）に戻すことを研鑽すべきです。

「稽古の心構え」

「両刃交鋒不須避」（りょうば ほこを まじえ さくるを もちいず）という言葉があります。「一足一刀の間合いで、お互いに打つ間合いにあるとき、そこで引いてはならない。打つのみ」という言葉ですが、これがなかなか難しいものです。交刃は即ち一足一刀の間、触刃に始まり交刃になる。ここが生死の分かれ目、生死の間に入ることです。心の修業と併せて間合の修得をするよう心掛けていただきたいと思います。

令和4年11月九州地区クラブ例会模擬審査会のご案内

日時:令和4年11月12日(土曜日)14時30～16時30分 場所:(株)ランテック剣道場
模擬審査会 14時30分～15時30分(予定) 審査講師:八段の先生方
六段、七段、八段受審予定者(参加者が少ない場合は相互稽古に変更して、
終了時間を早めます。)

参加ご希望の方は組み合わせ等準備がありますので、11月4日までに
返信メールまたは電話で、山田、溝口まで、連絡をお願いいたします。

指導稽古 15時40分から16時30分

山田: m.yamada.kokura.k8@gmail.com

溝口: yumehome@d7.dion.ne.jp

《連絡事項》

1. コロナ感染者が減少していますが、行政から行動制限の方針が発表された場合は、11月例会は中止します。
2. 稽古参加の時はマスク着用、検温(各自)でお願いします。体調不良の方は、稽古会のご参加はご遠慮願います。(体温計、消毒液は準備しています。)
3. 稽古会には遠方より参加して頂いておりますので、交通事故等にはご注意ください。

新入会員:打越 亨(うちこし とおる)氏のご紹介

【出身】:鹿児島県日置市吉利、現在 66 歳

【職業】:福岡市内で建設業を経営

【剣歴】:地元のスポーツ剣道少年団、中学、高校(吹上高校、泉尾工業)
現在に至る。剣道五段

【思い出】

- ・青春時代にボクシングに打ち込み、全国大会に出場する。
- ・1995年第一回ホノルルフェスティバル 日米親善剣道試合出場。
- ・ホノルルで元筑波大学教授今井三郎先生から、

「私は教える事は出来るが変えることは出来無い」

との言葉に感銘いたしました。

